



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月1日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 シモジマ

コード番号 7482 URL <http://www.shimojima.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 下島 和光

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役上席執行役員管理本部長 (氏名) 下島 雅幸 TEL 03-3862-8626

四半期報告書提出予定日 2021年2月9日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績 (2020年4月1日～2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	36,110	△3.6	457	△32.2	687	△17.9	△166	-
2020年3月期第3四半期	37,441	1.4	675	△20.3	838	△15.9	442	△31.1

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 △14百万円 (-%) 2020年3月期第3四半期 502百万円 (△8.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△7.14	-
2020年3月期第3四半期	19.01	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	38,781	32,288	83.1	1,386.14
2020年3月期	39,365	32,928	83.4	1,411.00

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 32,237百万円 2020年3月期 32,811百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	-	11.00	-	16.00	27.00
2021年3月期	-	11.00	-		
2021年3月期 (予想)				11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2020年3月期の期末配当金の内訳は、普通配当11円00銭、創業100周年記念配当5円00銭であります。

### 3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,200	△2.2	260	△48.6	500	△31.7	△310	-	△13.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	24,257,826株	2020年3月期	24,257,826株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	1,000,884株	2020年3月期	1,003,564株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	23,255,037株	2020年3月期3Q	23,262,595株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で個人消費や企業活動が制限され、景気は極めて厳しい状況にありました。政府の経済対策等により一部で持ち直しの動きがみられたものの、先行きは依然として不透明な状況が続いております。当社グループが属する業界においては、巣ごもり消費の増加、ネット通販拡大、業種・業態を越えた競争激化、脱プラスチックやレジ袋有料化等の環境問題への意識の高まりなど、消費行動や事業環境の大きな変化が続いています。

このような状況のもとで、当社グループは基本理念である「お客様のニーズに迅速かつ的確にお応えする」ことを基本に、販売体制及び利益基盤の強化に取り組んでまいりました。

営業販売部門では、ディーラー部門においては既製品の主力商品や環境配慮型商品を拡販し、ユーザー部門においては特注品の受注活動に注力し、パッケージプラザ部門においてはコロナ禍における各地域のお客様のご要望に応じて衛生用品やテイクアウト資材等の販売に努めました。しかしながら新型コロナウイルスの新たな感染拡大による各種イベント自粛を始めとする経済活動停滞の煽りを受け各部門で売上が減少いたしました。

店舗販売部門では、コロナ禍で需要が高まった衛生用品、飲食店のテイクアウト・デリバリー資材や通販資材の販売に継続して注力いたしました。また「シモジマオンラインショップ」においても飲食店向けの販促活動や巣ごもり需要への対応を強化し売上拡大を図りました。しかしながら全体の売上は減少いたしました。

その結果、グループ全体の売上は前年実績比13億30百万円の減少となりました。

利益面では、営業活動縮小に伴う経費抑制により販売費及び一般管理費は減少したものの、売上の落ち込みが大きく響き、各利益で前年実績を下回る結果となりました。また第3四半期連結累計期間において、紙製品製造における投資の一部回収が見込めなくなったことから固定資産の減損損失9億91百万円を特別損失として計上いたしました。

この結果、連結売上高361億10百万円（前年同期比3.6%減）、連結営業利益は4億57百万円（前年同期比32.2%減）、連結経常利益は6億87百万円（前年同期比17.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億66百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益4億42百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

## 〔紙製品事業〕

紙製品事業は、当社創業以来の主力事業としてオリジナルブランドの紙袋、包装紙、紙器を中心に販売しております。紙器事業においては、通販資材やテイクアウト・デリバリー資材の売上が市場のニーズの高まりを受け顕著な伸びを示しましたが、新型コロナウイルスやレジ袋有料化に伴い、マイバッグ浸透による紙袋の使用減の影響で、紙袋事業の売上は大きく減少しました。その結果、連結売上高は62億18百万円（前年同期比14.8%減）となりました。

## 〔化成品・包装資材事業〕

中核の化成品・包装資材事業においては、市場と顧客ニーズに適合した商品開発と拡販に取り組みました。化成品事業においては、新型コロナウイルスやレジ袋有料化の影響により、小売・卸向けの資材全般の売上が大幅に減少いたしました。包装資材事業では、環境配慮型商品の開発や販売を継続するとともに、テイクアウト・デリバリー資材や個包装関連資材の拡販に注力することにより、売上の減少幅を抑えることができました。その結果、連結売上高は195億50百万円（前年同期比4.8%減）となりました。

## 〔店舗用品事業〕

店舗用品事業は「店舗及びオフィスで使用するあらゆるものが揃う」をコンセプトに事業展開しております。インバウンド需要の消滅により筆記具・学童文具の売上が大きく減少した上に、ハロウィン・クリスマスのイベント商品の売上が伸び悩みました。一方、衛生用品は引き続き旺盛な需要をバックに売上が拡大しました。その結果、店舗用品事業の連結売上高は103億41百万円（前年同期比7.6%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は387億81百万円となり、前連結会計年度末に比べて5億83百万円減少しました。流動資産は207億49百万円となり、7億95百万円増加しました。主な要因は、現金及び預金が6億71百万円、たな卸資産で1億55百万円それぞれ減少しましたが、売上債権で15億57百万円増加したこと等によるものであります。固定資産は180億32百万円となり、13億79百万円減少しました。主な要因は、減損損失によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は64億93百万円となり、前連結会計年度末に比べて56百万円増加しました。流動負債は51億29百万円となり、76百万円増加しました。また、固定負債は13億63百万円となり、19百万円減少しました。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、322億88百万円となり、前連結会計年度末に比べて6億39百万円減少しました。主な要因は、利益剰余金が7億93百万円減少したことによるものであります。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.3ポイント低下し、83.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結事業予想の修正につきましては、本日公表の業績予想の修正に関するお知らせをご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,332	6,661
受取手形及び売掛金	5,936	7,301
電子記録債権	596	787
商品及び製品	5,123	5,087
原材料及び貯蔵品	590	470
その他	388	451
貸倒引当金	△13	△11
流動資産合計	19,953	20,749
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,597	3,989
土地	7,881	7,769
その他(純額)	1,829	932
有形固定資産合計	14,309	12,691
無形固定資産		
のれん	446	378
その他	1,135	1,085
無形固定資産合計	1,582	1,463
投資その他の資産		
その他	3,650	3,971
貸倒引当金	△130	△94
投資その他の資産合計	3,519	3,876
固定資産合計	19,411	18,032
資産合計	39,365	38,781

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,765	3,239
短期借入金	47	3
1年内返済予定の長期借入金	2	2
未払法人税等	295	23
賞与引当金	374	132
役員賞与引当金	20	20
その他	1,547	1,708
流動負債合計	5,053	5,129
固定負債		
長期借入金	5	70
退職給付に係る負債	302	298
その他	1,075	994
固定負債合計	1,383	1,363
負債合計	6,437	6,493
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,405	1,405
資本剰余金	1,304	1,304
利益剰余金	37,215	36,421
自己株式	△1,117	△1,114
株主資本合計	38,807	38,017
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	199	451
繰延ヘッジ損益	29	△12
土地再評価差額金	△6,195	△6,195
退職給付に係る調整累計額	△29	△23
その他の包括利益累計額合計	△5,995	△5,779
非支配株主持分	116	50
純資産合計	32,928	32,288
負債純資産合計	39,365	38,781

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	37,441	36,110
売上原価	25,582	24,547
売上総利益	11,858	11,563
販売費及び一般管理費	11,183	11,105
営業利益	675	457
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	5	5
受取賃貸料	45	47
為替差益	—	12
貸倒引当金戻入額	12	31
その他	139	162
営業外収益合計	206	263
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	0	—
その他	43	32
営業外費用合計	44	33
経常利益	838	687
特別利益		
関係会社株式売却益	—	155
保険解約返戻金	22	37
特別利益合計	22	193
特別損失		
減損損失	25	991
出資金評価損	16	7
特別損失合計	41	999
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	819	△118
法人税等	376	113
四半期純利益又は四半期純損失(△)	442	△231
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△65
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	442	△166



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	442	△231
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	37	252
繰延ヘッジ損益	19	△41
退職給付に係る調整額	3	5
その他の包括利益合計	60	216
四半期包括利益	502	△14
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	502	50
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△65

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

当社グループは、新型コロナウイルス感染症による影響が連結財務諸表作成時点までの実績や利用可能な外部情報等を参考にしたうえで、年度末まで続くと仮定しており、当該仮定をもとに繰延税金資産の回収可能性や、固定資産の減損等の会計上の見積りを行っております。

前連結会計年度に行った会計上の見積りの前提となる仮定については、全体として重要な変更を行っておりません。ただし、主力事業である紙製品事業については個人消費や企業活動停滞の影響の程度が大きく、レジ袋有料化に伴い、マイバッグ浸透による紙袋の使用減等の影響を受け、紙製品製造における投資の一部回収が見込めなくなったことから、当第3四半期連結累計期間において、固定資産の減損損失991百万円を計上しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙製品	化成品・ 包装資材	店舗用品				
売上高							
外部顧客への売上高	7,298	20,527	9,615	—	37,441	—	37,441
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	5	—	740	745	△745	—
計	7,298	20,532	9,615	740	38,186	△745	37,441
セグメント利益	681	1,203	104	9	1,998	△1,323	675

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、内容は物流事業であります。

2. セグメント利益の調整額△1,323百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	紙製品	化成品・ 包装資材	店舗用品				
減損損失	3	12	9	—	25	—	25

## (のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、ミタチパッケージ株式会社及び朝日樹脂工業株式会社の2社の株式を取得し連結の範囲に含めたことに伴い、のれんが計458百万円発生しております。

各セグメントののれんの内訳については、下記のとおりであります。

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 貸借対照表 計上額
	紙製品	化成品・ 包装資材	店舗用品				
ミタチパッケージ株式会社	18	146	67	—	232	—	232
朝日樹脂工業株式会社	—	226	—	—	226	—	226
計	18	372	67	—	458	—	458

## II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙製品	化成品・ 包装資材	店舗用品				
売上高							
外部顧客への売上高	6,218	19,550	10,341	—	36,110	—	36,110
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	12	—	820	833	△833	—
計	6,218	19,563	10,341	820	36,943	△833	36,110
セグメント利益	424	1,385	2	9	1,822	△1,364	457

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、内容は物流事業であります。

2. セグメント利益の調整額△1,364百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	紙製品	化成品・ 包装資材	店舗用品				
減損損失	991	—	—	—	991	—	991